

名古屋
山三郎
不破
伴左衛門

繪本福妻表紙

四

13
183
4



於
183
+

昔話 稻妻表紙卷之四

江戸 山東京傳編

(十二) 修羅の大鼓

さきも銀杏の前ハ山三郎なまのふ扶たすられて生駒山いこまのの林はやしまでおちのびしが
 近ちか堂どうあて追手おいての者ものふ捕とらへられ不破ふは道みち犬いぬが手てふつりて蜘蛛くま手て方の
 深ふか殿どのおとまりなるひ一間いっまのうちに小押こし籠かごられて日ひのかけだふること
 わたしも月つき若わ者のあまのうちに苦くふあらうへに朝夕あさゆふのあひなみの食け事しだふらくく小
 多おほきさねは心こころ気き日ひふおとろへん才さい体たい夜よふやせをそとて命も危く
 又またえまへん志しのちろうぶどろな蜘蛛くま手て方かたと密ひそ談だんして大おほ殿どの判はん官くわんの
 命いのちといつつといつつのまえを引ひいてて両ふた人にんうらぐぐ昼ひる夜よたえぬさう
 寤ありま現ま責せめして月つき若わのちろうへん自みづか状じやうと責せめして命も危く
 寤ありま現ま責せめして月つき若わのちろうへん自みづか状じやうと責せめして命も危く

東京

古今圖書集成

つとたる可責カクヤあり。なぐひまされたる責セウク苦あり。かゝる折マしも。そり次ツギの者
 をせまあり。黒星眼平クワシタマ只今敵国トクニクつらつりおん次ツギふひ入ハんやしと
 まちゆとまきと申ウれは及およた歩あ図ず。それいそ死しらぬへどつとつとど。はを
 小ことて退あきぬ。あどあく眼平タマヒラまゝといひて。椽側ツギ小頭コカウとまげていひた。え
 月若ツキワカどの申ウへとたぐひ。おん首カビおてまわれとのおふせふを所あり
 方かとをたぐひのりあゆち。註進チュウジンの者ものありて丹波タニハの国くに穴太アナタの里さと小住こむ。
 六字ろくじ南无なんぶ右衛門えもんと申ウと者ものかくまひやくは同どういじし。ゆさ急いそいそがま
 切きひ小所こところは彼者かのものいひして。打手うちてのむらふすと知し若君わかにとつぬてのれ
 あり。申ウへまぬどなりゆ。あむ右衛門えもんと申ウとい別人べつじんともふど。佐さ良ら三さん八はち
 郎らうがとふ小と假首かせうびをうけとせし。おのが越度おちどはかじ。まこととや
 小相おののぞ。知手ちて方かたられを同どう。その殘念ざんねんあり。あるうへいといふの前まへと

せむも無益むいやくとて。かれのうへ殺ころむつたをがあれども。畢ひ竟ま月若ツキワカの
 ありうをいそさんちうふ。今日けふまでもいけおまぬ。や大殿おんたいのふくろと
 て。助命すけいのちあるとあは。後日ごにちのさぬたげあり。そりくかれを殺ころまぬし。
 月若ツキワカ三さん八はち郎らうが申ウへ。あやうひくたぐぬへ。及およたちのいひと
 申ウへとのうへ。及およたちのいひと。それにも左ひだりを存ぞんひさる。かへ片時せんじ
 も。後のち。豫よハハ。及およたちのいひと。幸さいひ日ひもくれあんこ。それバ今宵こんやのうち。及およた
 着き打うちぬ。いふと眼平タマヒラ。あんぢのうへ。の前まへのを乗物のりもののせ。夜よ子こまき
 して。岩倉谷いわくらや小こかき田た。ひそくおん首カビおて来きる。と命いのちしりぬ。バ
 眼平タマヒラ腹はら心のあは。とよびつぎ。庭にわさふ。乗物のりものとかれのゆき。せ。夢現ゆめげん
 して打伏うちふしたる。いそ。の前まへと。惜あはれもあは。うへ。と。高たか手て小こ手て小こ手て
 わげて。乗物のりもの小こへ。あは。たか。せ。は。た。と。ひ。て。庭にわづ。ひ。小こい。て。岩倉いわくら



ハておの前
山更君谷に
おいて首を
うんとと
時何者
ともちれを
太刀とりと
打ころして
いておの前
うび去る



是善人悪人。そと敵味方。何人とりよこす。成る。ど。試者
の姓名。成る。ど。と要。巻之五の下冊。第十九回と讀得
て知る。

(十三) 霊場の熱開

その比。近江の国。石山寺の觀音菩薩。結縁のた。り。用帳ありけり。名に
あ。つ。美。場。あり。ぬ。が。ろ。ぬ。あ。ま。し。く。来。人。士。女。老。少。群。集。綿。絡。繹。
そ。そ。と。ゆ。れ。く。あ。づ。く。も。た。え。ど。誠。是。行。川。の。ち。づ。れ。の。と。ま。り。さ。り。ふ
似。り。商。人。ど。も。か。も。あ。ま。の。ひ。も。乘。り。て。過。分。の。福。を。得。ん。之。假。假
屋。と。つ。つ。草。津。鞭。守。山。鞆。高。宮。布。長。濱。糸。大。津。針。高。嶋。硯。武。佐
墨。水。口。笠。辻。村。の。鍋。の。た。び。ひ。玄。惠。法。印。が。庭。の。訓。ふ。か。せ。る。の。す。で。あ。の
が。さ。ぬ。ぐ。持。て。さ。び。て。山。の。ご。と。く。つ。ち。あ。く。ぬ。が。買。人。の。雲。の。ご。と。く。ふ。あ。の。す。ぬ。

あ。ひ。酒。賣。家。あ。り。餅。菓。賣。軒。あ。り。惣。所。を。つ。り。て。茶。と。ひ。く。者。
あ。と。小。弓。の。射。場。ま。う。け。て。と。あ。り。こ。と。る。者。あ。り。あ。ひ。の。長。劍。を。撫。て
茶。と。う。く。今。様。と。う。く。ひ。て。鐵。と。同。も。ほ。く。ぬ。片。輪。者。見。も。か。べ。ぬ
鳥。獸。の。ど。奇。と。あ。り。ま。の。の。と。る。所。幻。戲。電。脱。刀。玉。縁。竿。の。た。び。ひ
奇。妙。の。術。を。施。と。所。あ。り。ど。処。せ。れ。ま。ぞ。立。る。び。笛。吹。音。鼓。打。声。四。方。み
ひ。び。て。あ。ぬ。び。と。く。諸。人。の。耳。目。と。あ。ら。う。む。は。大。路。の。ち。み。薦。と。ら。れ
か。け。り。家。は。く。と。紙。の。と。ら。ぬ。招。牌。不。辻。談。義。露。の。五。郎。兵。衛。尉。と。墨
く。ろ。み。か。と。つ。け。て。戸。口。あ。け。た。る。あ。り。か。れ。が。い。ふ。と。同。と。て。人。あ。ぬ。は。い。ひ
居。たり。講。師。た。り。床。の。う。み。の。ち。り。書。案。の。う。み。折。木。の。か。じ。と。あ。れ。ま。ら。ぬ
あ。り。が。れ。を。前。み。た。て。聽。聞。衆。あ。ひ。ひ。夫。は。り。阿。弥。陀。經。を。考。う。ふ。如。來
ハ。五。劫。の。回。思。惟。一。む。ひ。上。ハ。一。人。と。下。ハ。婆。々。嫁。々。丹。い。つ。る。ま。で。残。つ。た。う。

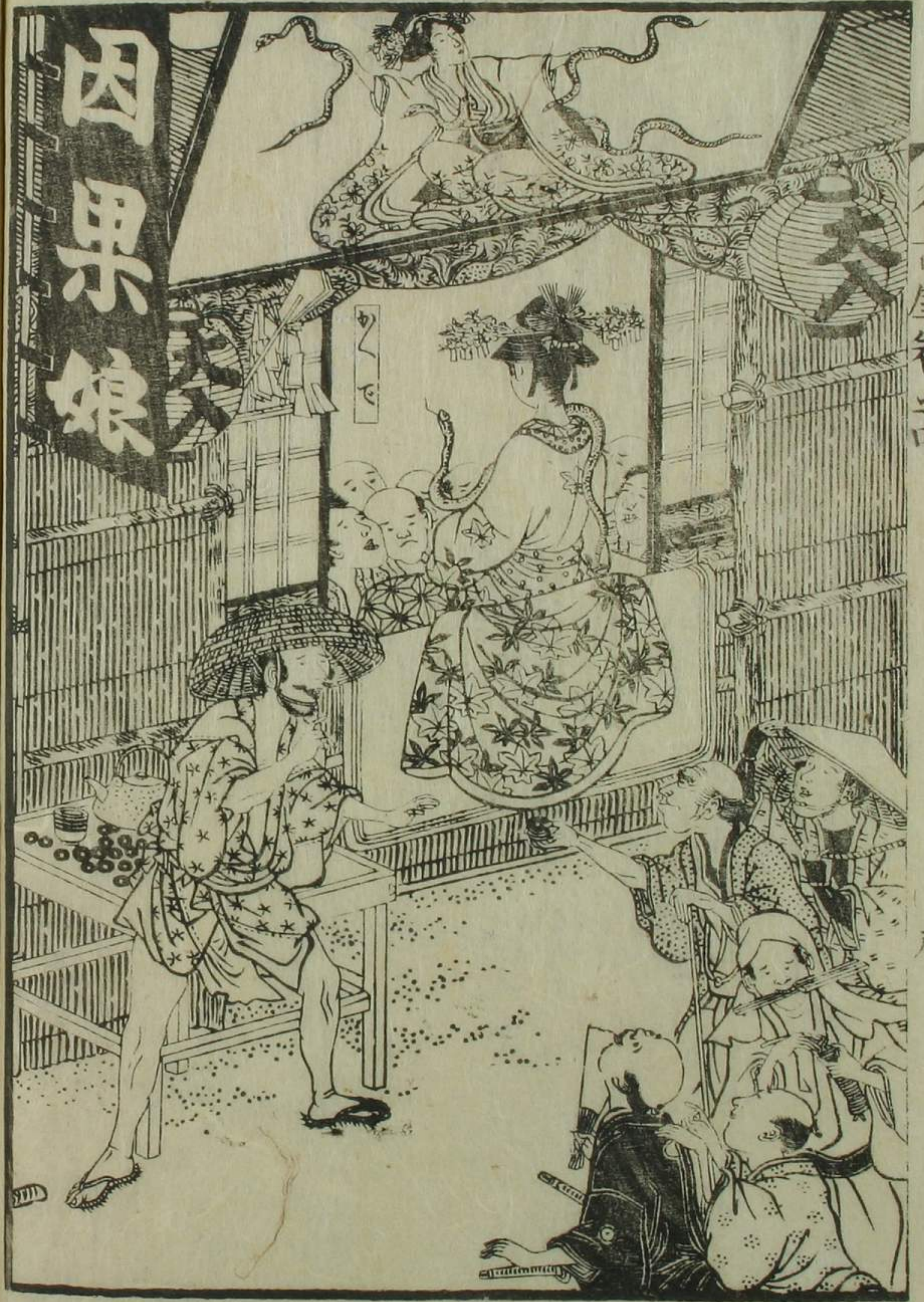
ことひそりちの御世言願のあけくや我をまて。あまがたふたふたにすふ
 あらざるや。かろが思ふ弥陀如来の寝あふとていさそあまそあぐく居あふ
 ことひそりち。十万里かろの西方。ことひそりちの方ふ伸あまもあひて。衆生
 の地獄をほくろと又あひて。あまやくとあまそあぐく。それより
 持国多聞あどつ。一騎當千の四天王。小命せられ衆生胸裏の地獄を
 ほくろと御分別あたふた。声あけしうちあけてつひて。かの楠木をとりて
 書案と撲地打あじけれ。芝居一度あ鳴動し且笑且感る。土屋を
 らくハあまざりろ。そのあまもあまそあぐく。小屋ほくりて外の方ふ
 うりく。た少女のあうちあ蛇のまこひほきたるまなと繪あかざる。招
 牌をかかげし。なるあま。かろあまもあまそあぐく。男戸口あ立扇をひらけて。往來の
 人をさしあまそあぐく。声あまもあまそあぐく。これいままほしと又あへとも

以女子とそ丹波の国なる。奥山小住権師の子あられ。殺生の罪科親の
 因果の子あひひあまそあぐく。蛇あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。
 容ハ世小あまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。
 あたり。十うつ罪障消滅の便もあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。
 都小あまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。
 観音堂のふとりあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。
 代未因又たぐひあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。
 ことひそりち。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。
 蟻のごとくあまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。
 ひーりれたあひそこれとあまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。
 右橋門が娘あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。あまもあまそあぐく。

そめ。頭み花并をさう。つばし。色元結をむきび。髪の中ひぎぬも今
様。小ころのあけて。阿曾比めれたる。容小ほくく。床机めき。さるもの
うみ。紅の毛氈。まききて。尻うけたる。安嬋娟たる。牡丹花の咲を
たる。ごうく。あたりもか。やむらう。とけれど。腹手首咽らび
あし。蛇さもい。く。さう。ま。く。ひ。ほ。に。か。ぬ。く。び。を。や。な。て。赤。さ。針。の
や。り。ある。舌。を。吐。い。て。目。を。不。ち。く。ど。う。せ。う。ぐ。り。く。さ。ぬ。又。さ。み。さ。入。の。毛。を。か
だ。つ。む。り。ま。り。見。物。の。諸。人。何。の。遠。慮。も。あ。く。つ。れ。が。教。を。ち。り。ぐ。と。う。ち
ま。の。り。と。母。み。ま。り。あ。る。娘。さ。う。み。か。く。妖。蛇。ふ。え。る。れ。不。お。し。ま。さ。ま。お
あ。が。さ。か。る。あ。い。返。さ。さ。だ。ふ。ま。り。み。た。う。を。それ。か。ゆ。う。人。集。て。え。さ。ら
こ。と。と。の。女。い。ふ。つ。び。と。や。ろ。う。ん。あ。か。不。便。の。こ。と。と。い。ふ。傍。の。人。の
い。つ。ふ。い。か。く。つ。れ。が。親。ら。い。と。さ。ら。て。非。義。非。道。を。か。こ。あ。ひ。つ。る。悪。人

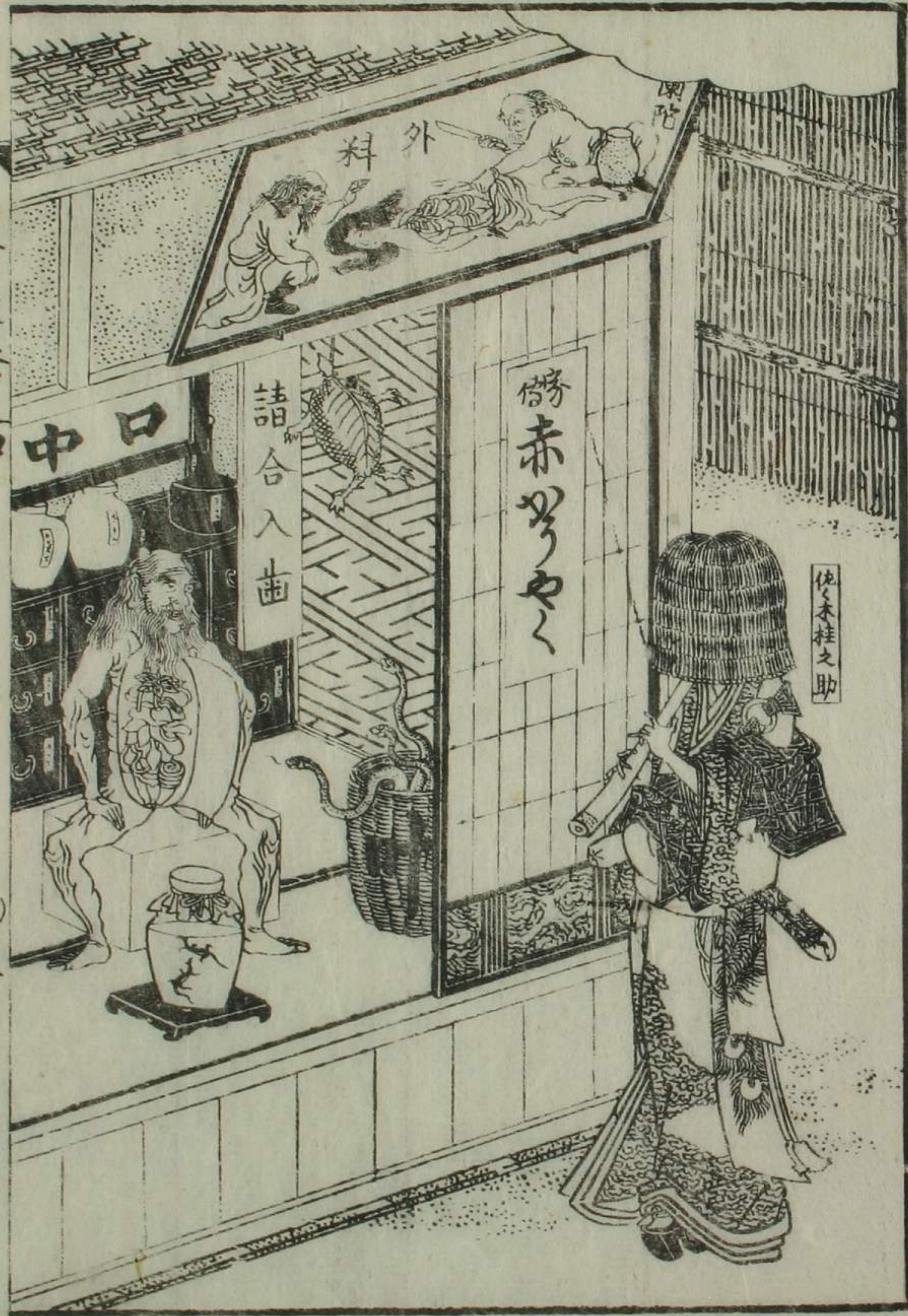
あがめ。それゆゑ。小親の因果の子。ふむ。つて。あ。い。返。さ。さ。ま。り
ほ。め。さ。る。あ。い。返。者。の。う。み。つ。け。は。子。あ。れ。い。つ。れ。も。又。安。を。さ。う。ら。じ
けれ。志。い。さ。を。あ。ぐ。は。り。あ。の。人。の。よ。き。戒。め。ど。か。う。人。ぐ。小。面。さ。は。り。り
い。つ。り。そ。つ。と。が。罪。科。の。ま。え。う。と。ら。う。ま。か。さ。り。憐。む。は。み。あ。い。ど。人
く。く。く。と。や。り。ぬ。あ。ど。つ。ぐ。ふ。り。つ。と。同。つ。人。ぐ。小。教。ま。り。う。う。楓。が
苦。さ。い。さ。り。あ。ん。さ。う。と。ま。さ。る。抑。石。山。寺。ハ。石。光。山。と。号。し。天平
勝。宝。六。年。の。草。創。あり。聖。武。天。皇。の。朝。僧。正。良。辨。如。意。輪。觀。自
在。丈。六。の。尊。像。を。安。置。す。一。十。有。餘。年。を。経。た。る。灵。場。あり。後
連。峯。我。と。う。て。岩。間。笠。取。醍。醐。子。は。り。あり。前。ハ。勢。田。川。の。あ。が。れ
水。林。こ。と。う。て。湖。水。小。ほ。く。く。げ。ふ。此。地。の。月。を。賞。し。て。近。江。八。景。の。一。勝。と
せ。る。も。う。ぐ。あり。相。伝。法。寺。の。門。前。ふ。ひ。の。浪。人。深。編。笠。小。面。を。か。り

古今圖書集成



江戸の五郎と
辻談義

谷古屋巻之四



古屋巻之四

時ふの男棒をひきとちげこそ平伏し土小頼をとりはて奉
 いひけら某察しなふ君の佐木若殿挂之助国知公ふらひは
 実とおへあしむいれしと相のさ虚无僧頭を打ちり。さあひうけさる
 事と同うのさ某の一所不任の修行者あて。さより卑賤の者あり
 かなんば人も人たぐいあつるといふの者あていさ。世とあのおん
 ありば容易小実とおしむのぬも理あり。先ちがれが弟のうへは前ふ
 世まきとんあふん。それちがれおん家士名護屋山三郎が僕麻呂
 こやと者の年様二郎とて若者あていふ兄さあ山三郎は久
 ちとていさ。あうぬいあえありてはん城許し。吉郷河内の国ふつてふ世
 うちまらる三郎左衛門不破伴左衛門が為小園打ふあひ山三郎は平
 郡の館の騷動ふはれて。あうぬが住家おちまら。さあ君のあひ

ことなづねて安否とさひをり。二つあ伴左衛門をたづね出して父の仇を
 ひくつん。さかく小命とて所、方をたづねり。さあ山三郎麻呂とて
 て西国小様まをりぬ。あうぬの露の五郎を名を更迭談義ふこととせそ
 京大坂へやさふおふとて所、人立おれ処にいりて専尋ねりぬ。さあ
 唯今君おめぐりのあひをさふ。我く主従が一念さきし所、さああ時さ
 某等がごとく賤をさひあん姿と拜し。さあことなもあふまらさふ。面前拜
 謁ほくぬつ。勿体るささといひて。実心面ふあられぬ。虚无僧あるか
 げにさる誠心とて同うの何をささむ。むべに汝が推量小たづねど我の挂之助
 汝が面いささささ。山三郎があひさ麻呂。後次郎とて兩人ありさ
 かしこより因がびぬこのさあひゆ。後三郎とて買加あさる。あん詞あてし
 ぬ。さあさあおあへん。不破たが悪意。奥方若君のあひさのうへ

ちとそん。さめぐやあぶね夏あねども途中おへさこえび。お捕手の
 奴原人数とまてあまびらふまきんハ必定あねだ。こくおんを
 かしあま。世の奴原まをぬり。あうぐをひびて耳おつて
 さめまね。さそるうむひの方お家あ。あうり障子み子相傳名方赤
 膏葉と筆どおめつけたと門口おたて。外のあふあふの葉名を
 ちうなる招牌とつてあま。あうくの奇病のさ名解體の首あとから。
 こねうともあけい。なる外療の葉とひさく家あうりけ。核二郎指にて
 け。あやうがれが旅宿あ。幸あは。京よりて家おと。只龍尊の老僕
 あ。の。たれ。あ。者もぬつど。桂之助といひてあの家お。を
 裏お入りてあ。障子と。の。引たて。声と。て居。て
 けり。は。時。己。日。ハ。れ。早。夕。月。夜。の。光。の。た。う。る。り。け。果。て

捕手の者ども人数とまて。まて。は。家。と。り。か。み。声。な。や。ふ。ら。り。い。ひ
 け。い。さ。さ。ど。は。家。お。か。れ。た。る。虚。元。僧。の。佐。木。桂。之。助。国。知。ふ。う。こ。ひ。な。
 い。ふ。国。知。あ。ん。ぢ。官。領。職。濱。名。殿。の。内。意。あ。う。り。勘。当。う。け。た。る。ま。を。遣。恨
 お。ろ。ひ。む。そ。ふ。野。依。浪。人。ども。を。あ。ひ。濱。名。の。敵。せん。と。る。は。註。進。の
 者。あ。り。て。さ。こ。し。ち。さ。れ。あ。ら。り。て。ま。た。と。と。最。命。と。あ。う。り。て。我。輩
 を。せ。む。ひ。つ。つ。あ。り。の。れ。ぬ。所。ど。う。う。お。出。き。う。て。い。や。め。と。う。け。い。や。こ
 手。む。ひ。で。奴。め。も。あ。ん。ぢ。お。一。味。の。者。あ。ん。の。の。奴。め。も。さ。う。く。と。へ。い。で。
 首。ひ。さ。め。さ。て。あ。ひ。ま。げ。ん。ぶ。る。と。口。お。極。く。の。ま。れ。も。様。二。郎。が。さ。れ
 む。ら。の。手。あ。の。お。お。れ。て。内。お。さ。め。い。ん。ど。る。者。の。独。も。あ。う。只。さ。う。う。い。こ
 の。こ。ち。り。け。り。時。お。あ。る。と。障。子。み。人。影。う。り。桂。之。助。の。声。と。い。い。め。あ。ん。ぢ
 ら。あ。う。ま。り。て。我。の。と。同。我。耻。と。あ。ひ。て。今。日。ま。で。い。ま。あ。ん。ぢ。二。所。不。住

小さなひつるが。そくも武運小尽なるが。ねば。所におさる。いさぎよく。
 腹かきやうりて相果るぞじ。いざ首とさうて高名ふせ。者さる。こまがり
 けるが。やうて障子のさくさぬ。鮮血をアてさうれ。ぬ捕手の者われ
 さふ首さうて賞銀ふあが。ゆん。遅速とあ。障子とおた。うて
 内とるね。い。小桂之助あ。正面の胡床のう。人の長ちど
 小は。五腕六腑とい。神農の胴人形。右小茶匙と持。左小茶
 草とさうた。とさ。障子のひ。血。赤膏菜み
 ぞあり。の者。酒小酔。け。さ。い
 欺め。口。さ。今。桂之助。か。い
 た。奥の二間と目。走り。誤り。傍
 あり。籠。と。た。ち。数多の蛇。出。つ。

手脚小ま。ひつ。お。驚。又。誤。膏菜鍋と
 しみ。け。膏菜足の。つ。蛇の手を
 膏菜の足。それ。と。進
 退を失。只。騒動。猿二郎。ひ
 め。お。打。大太刀。抜。一。ち
 一。敵。者。あ。け。大太刀。居合。刃引太刀。か
 一。つけ。痕。蚯蚓。の。一。命。悪。は
 一。塊。を。奪。れ。臆。なる。者。も。ね
 一。粘。たる。蠅。の。た。れ。も。起。も。得。手。と。さ。足。を
 一。ち。ふ。と。お。ひ。つ。起。り。け。疵。持

足の膏菜あしのかうさい引ひぬらさくちしそ。さけりまうびつつひ逃にげぬにけり。
 猿さる二郎にらうの太刀たちをさそて打うち笑わらさそも臆おく病びやう有ある奴原やつもとも因ゆゑ早娘はやむすめの
 蛇へびどもがふひもかけぞ用もち立たし。禍わざはひの三年さんねんめもひつべしとひとま
 そちて。蛇へびどもとめとの筑籬きりぎりすかうちれ一間いっかんのうちより桂けい之助のすけと
 ともちひ出いでかきとを殺ころしゆて。かくして後日ごふちのさぬたげふゆわつざと
 刃引やいばり太刀たちとめちひて地ちづい。はやくふひをさるふ不破ふた及および大君おほきみと共ともひ
 せんとさうりて官領くわんりやうの命いのちとりやり。君きみのおん心こころみおぢえさるまを
 ちしたて。捕手とらとむけさる疑うたがひは大切たいせつのおん身みをぬがゆわつざども
 かりじく出いであられむらさき。かゆ一度いちど又またおぢえたるは家いへお忍しのび
 せんと危あやうけとバ。今宵こんしやうのうち別所べつじよお御座ござとさうりまさん。いささせ
 むんと催めして。つひふ兩人ふたりのせめけり。

